

研究ノート

田中敬の著作目録

石川賀一[†]

【要約】 本論稿では、田中敬研究の文献調査を通じて新たに発見した『田中敬著作集』に収められていない論稿を整理し、新たに田中敬の著作目録を作成した。

【キーワード】 田中敬、著作目録

0. はじめに

田中敬(1880-1958)は大正期から戦後にかけて活躍した図書館人である。東北帝国大学附属図書館の新設当初から職務に就き、同大学の最初の司書官を務めるなど附属図書館の基礎作りに尽力した。同大学退職後には大阪帝国大学に招かれ、戦後には近畿大学附属図書館の館長を務めた。

その一方で、研究活動にも取り組み、『図書館教育』(1918年)、『図書学概論』(1924年)、『粘葉考』(1932年)、『汲古随想』(1933年)、『和漢書目録法』(1934年)を著述し、1956年にはこれまでの図書学研究の集大成ともいえる「図書形態学と活版印刷発明史上その応用¹⁾」で文学博士を取得した。田中の死後、岩猿敏生によって『図書館教育』の復刻版(1978年)、1981年には『田中敬著作集著』(全6巻)が刊行された。

『田中敬著作集』は、田中が著述した『図書学概論』(第1巻)、『粘葉考』(第2巻)、『汲古随想』(第3巻)、『和漢書目録法』(第4巻)の復刻版、博士論文である『図書形態学とその応用』(第5巻)、そして田中による図書、図書館に関する論稿をまとめた『図書・図書館論集』(第6巻)で構成されている。また『図書・図書館論集』には田中の著作目録²⁾が付されている。

しかしながら、筆者がこの著者目録を手がかりに田中敬研究を進めていくと、雑誌記事・新聞記事の著作をまとめた「(3) 論文」の記述には、書誌情報の誤りが散見し、また図書、図書館論の論稿を含め、多くの書誌情報が欠落していることがわかった。本論稿では、新たに発見した田中の著作について説明するとともに、従来の著作目録にこれらの書誌情報を加えた総体的な田中敬の著作目録を作成する。

1. 新たに見つかった田中敬の論稿について

今回、田中の著述文献を調査した結果、新たに43件(雑誌記事:39、新聞記事:4)の論稿を発見することができた。そのうち、教育系雑誌の論稿が14件(10、12、14、17、18、19、20、21、33、38、45、63、81、87)あり、いずれも図書館の教育的機能、図書館資料と教育(視聴覚教育)に関する内容であった。その他にも図書館に関する論稿が7件(46、56、68、73、76、77、83)、地方の図書館報の論稿4件(34、35、62、82)あり、図書館に関する論稿は25件に上った。一方、書誌学系の論稿は5件(65、66、96、125、129、144)であった。また書誌情報の欠落などで、確認できなかった文献には末尾に未見と付した。

[†] 駿河台大学メディア情報学部

このことから著作集の著者目録では、書誌学系の論稿を中心に編纂され、今回新たに発見した論稿によって、図書館の教育的機能ならびに、地方における教育的機能を意識した図書館経営に関する文献が加わり、『著作集』が目指した著作目録の構成になったといえる。

2. 田中敬 著作目録

I. 著書

- ・『図書館教育』同文館, 1918.5
- ・『図書学概論』富山房, 1924.10
- ・『粘葉考』(上・下) 巖松堂, 1932.9
- ・『汲古随想』書物展望社, 1933.10
- ・『和漢書目録法』日本図書館協会, 1939.3

II. 共著

- ・佐々政一, 田中敬編『孝道文学』富山房, 1911.7
- ・田中敬, 毛利宮彦共著『内外参考図書の知識』図書館事業研究会, 1930.7

III. 復刻版

- ・『図書館教育』日本図書館協会, 1978.7 (復刻図書館学古典資料集)

IV. 著作集

- ・『図書学概論』早川図書, 1981.9 (田中敬著作集第1巻)
- ・『粘葉考』(上・下) 早川図書, 1979.8 (田中敬著作集第2巻)
- ・『汲古随想』早川図書, 1979.8 (田中敬著作集第3巻)
- ・『和漢書目録法』早川図書, 1980.7 (田中敬著作集第4巻)
- ・『図書形態学とその応用』早川図書, 1981.10 (田中敬著作集第5巻)
- ・『図書・図書館論集』早川図書, 1981.5 (田中敬著作集第6巻)

V. 雑誌記事・新聞記事

・1909年

1. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(1)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 6, No. 8, 1909.9, p. 21-36
2. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(2)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 6, No. 9, 1909.10, p. 40-49
3. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(3)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 6, No. 10, 1909.11, p. 38-44

・1910年

4. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(4)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 2, 1910.2, p. 32-51
5. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(5)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 3, 1910.3, p. 44-48
6. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(6)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 4, 1910.4, p. 43-51
7. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(7)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 5, 1910.5, p. 32-38
8. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(8)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 6, 1910.6, p. 45-52
9. 「現今の倫理学説上より観たる儒教(9)」『東洋哲学』東洋哲学発行所, Vol. 7, No. 7, 1910.7, p. 35-46

・1912年

10. 「図書目録編纂私見」『教育学術界』教育学術研究会, Vol. 26, No. 1, 1912.10, p. 93-99
11. 「書物の述懐」『宮城県教育雑誌』宮城県教育会, Vol. 212, 1915.1, p. 30-36 →「吾輩は本である」として汲古随想に収録

・1916年

12. 「図書館学最近の進歩」『教育学術界』教育学術研究会, Vol. 34, No. 1, 1916.10, p. 6-19
13. 「現代図書館」『河北新報』河北新報社, 大正5年11月(未見)

・1917年

14. 「大学の発達と図書館の拡張」『教育学術界』教育学術研究会, Vol. 36, No. 1, 1917.10, p. 5-13
15. 「大学図書館の今昔」『自修会報』東北帝国大学理学部学自修会, No. 3, 1917.12, p. 5-12
16. 「随感随聴」『自修会報』東北帝国大学理学部学自修会, No. 3, 1917.12, p. 16-19
→ペンネーム(和製赤毛布)によるもの

・1918年

17. 「活動写真と読書の習慣」『帝国教育』帝国教育会, No. 432, 1918.1, p. 52-56
18. 「少女営火団と図書館」『教育時論』開発社, Vol. 1181, 1918.2, p. 22-24
19. 「活動写真の教育的利用」『家庭及学校』自学奨励会, Vol. 3, No. 1, 1918.7, p. 48-57

・1919年

20. 「理科教授と活動写真」『教育学術界』大日本学術協会, Vol. 39, No. 1, 1919.4, p. 55-59
21. 「補習学校としての図書館の職能」『帝国教育』帝国教育会, No. 441, 1919.4, p. 15-19
22. 「戦時図書館の活動」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 38, 1919.5, p. 5-12
23. 「戦時図書館の活動(続編)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 39, 1919.9, p. 44-50
24. 「ルーレーベン俘虜収容所の教育施設」『帝国教育』帝国教育会, No. 446, 1919.9, p. 74-78
25. 「図書館学研究の栞」『学燈』丸善, Vol. 23, No. 9, 1919.9, p. 1-7
26. 「図書館学研究の栞」『学燈』丸善, Vol. 23,

No. 10, 1919.10, p. 1-7

27. 「図書館学研究の栞」『学燈』丸善, Vol. 23, No. 11, 1919.11, p. 1-5

・1920年

28. 「洪水と図書館」『学燈』丸善, Vol. 24, No. 8, 1920.8, p. 9-15 →加筆し「六千年前の若返り文学」として汲古随想に収録
29. 「愛水漫筆(其一)」『学燈』丸善, Vol. 24, No. 10, 1920.10, p. 9-13
30. 「愛水漫筆(其二)」『学燈』丸善, Vol. 24, No. 11, 1920.11, p. 5-10
31. 「愛水漫筆(其三)」『学燈』丸善, Vol. 24, No. 12, 1920.12, p. 1-7

・1921年

32. 「愛水漫筆(其四)」『学燈』丸善, Vol. 25, No. 1, 1921.1, p. 1-5
33. 「活動写真と現代人生」『教育学術界』大日本学術協会, Vol. 43, No. 1, 1921.4, p. 79-88

・1922年

34. 「学校と図書館との協同」宮城県図書館編『明治五年学制頒布五十年宮城県図書館創立四十年記念誌』宮城県図書館, 1922.9, p. 27-29

・1923年

35. 「通俗図書館の施設経営に就て」『図書館時報』宮城県図書館, No. 1, 1923.4, p. 10-13

・1925年

36. 「図書館のレーゾンデートル」『観想』東洋大学観想発行所, No. 12, 1925.1, p. 20-25
37. 「蔵書印と蔵書心理」『東京朝日新聞』東京朝日新聞社, 大正14年3月15日夕刊, 1925.3.15, p. 5
38. 「図書館の教育的機能について」『千葉教育』千葉県教育会, Vol. 403, 1925.11, p. 11-16

- 39. 「支那古刻書の一面」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 68, 1925.4, p. 8-10
- 40. 「支那古刻書の一面(中)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 69, 1925.7, p. 12-13
- 41. 「支那古刻書の一面(下)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 71, 1925.9, p. 7-9
- 42. 「図書館員の資格について」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 73, 1925.11, p. 9-10
- 43. 「書斎の色」『東京朝日新聞』東京朝日新聞社, 大正14年12月13日夕刊, 1925.12.13, p. 7

・1926年

- 44. 「仙台府学養賢堂版に就いて」『書誌』書物同好会, No. 3, 1926.2, p. 6-9
- 45. 「教育の民衆化と図書館の施設—(林靖一君の『図書の整理と利用法』を読みて)—」『帝国教育』帝国教育会, No. 524, 1926.4, p. 88-97
- 46. 「故総裁閣下の御遺徳を慕ひまつりて」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 80, 1926.5, p. 29-30
- 47. 「訳語の字義に就て山本氏の批評に答う」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 81, 1926.7, p. 10-11

・1927年

- 48. 「鞠谷中島両氏共編『目録編成法』を批評す」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 88, 1927.3, p. 93-99
- 49. 「鞠谷中島両氏共編『目録編成法』を批評す(承前)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 89, 1927.4, p. 119-126
- 50. 「開架式の延長」『読書往来』読書往来同好会, Vol. 1, No. 3, 1927.4, p. 2-3
- 51. 「校正難」『読書往来』読書往来同好会, Vol. 1, No. 4, 1927.5, p. 11-14
- 52. 「四五の弁」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 93, 1927.8, p. 240-242
- 53. 「著者名標目式の一新例」『図書館雑誌』日本

図書館協会, No. 95, 1927.10, p. 287

- 54. 「目録法統一の希望(第21回日本図書館協会協議会提案要綱)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 96, 1927.11, p. 316-321
- 55. 「図書美の鑑賞」『学燈』丸善, Vol. 31, No. 11, 1927.11, p. 5
- 56. 「東北帝国大学図書館」『図書館研究』芸州会, Vol. 5, No. 2・3・4, 1927.11, p. 64-70
- 57. 「弁疑」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 97, 1927.12, p. 359-360
- 58. 「愛水満筆(一)」『学燈』丸善, Vol. 31, No. 12, 1927.12, p. 1-2

・1928年

- 59. 「愛水満筆(二)」『学燈』丸善, Vol. 32, No. 2, 1928.1, p. 1-2
- 60. 「『田捨女』を読みて」『朝日新聞』, 昭和3年4月13日朝刊, 1928.4.13, p. 5
- 61. 「図書の形態」『国文教育』, Vol. 6, No. 7, 1928.7, p. 17-37
- 62. 「図書の力」『函館図書館叢書』市立函館図書館, 第1篇, 1928.7, p. 13-21
- 63. 「肉体死して魂ひかる」『帝国教育』帝国教育会, No. 548, 1928.7, p. 58-60
- 64. 「縦か横か」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 105, 1928.8, p. 196-197
- 65. 「本の語義」『東京堂月報』東京堂, Vol. 15, No. 17, 1928.10, p. 3-4
- 66. 「此の書物を」『読売新聞』読売新聞社読売新聞社, 昭和3年11月14日朝刊, 1928.11.14, p. 5
- 67. 「中世大学の図書事務と写本の売買」『学燈』丸善, Vol. 32, No. 12, 1928.12, p. 1-2

・1929年

- 68. 「図書解題の解題(第一講)」『図書館学講座』図書館事業研究会, Vol. 7, 1929.8, p. C71-C92
- 69. 「三つ子のたましひ」『河北新報』河北新報社, 昭和4年, 1929(未見。『汲古随想』には「昭

和四年、夏「河北新報」とあり)

70. 「モリスを懐かしむ『書籍装釘の歴史と実際』を見て(上)」『読売新聞』読売新聞社, 昭和4年9月3日朝刊, 1929.9.3, p. 4 (庄司浅水著『書籍装釘の歴史と実際』の書評)
71. 「モリスを懐かしむ『書籍装釘の歴史と実際』を見て(中)」『読売新聞』読売新聞社, 昭和4年9月4日朝刊, 1929.9.4, p. 4 (庄司浅水著『書籍装釘の歴史と実際』の書評)
72. 「モリスを懐かしむ『書籍装釘の歴史と実際』を見て(下)」『読売新聞』読売新聞社, 昭和4年9月5日朝刊, 1929.9.5, p. 4 (庄司浅水著『書籍装釘の歴史と実際』の書評)
73. 「図書解題の解題(第二講)」『図書館学講座』図書館事業研究会, Vol. 8, 1929.11, p. C93-C99
74. 「台湾の印象」『河北新報』河北新報社, 昭和4年11月26日-12月11日, 1929.11.26-12.11 (未見)
75. 「『山陽先生朱批細香女史詩稿』を読む」『書物の趣味』書物の趣味社, Vol. 5, 1929.12, p. 106-109

・1930年

76. 「読書と図書の力(第一講)」『図書館学講座』図書館事業研究会, Vol. 9, 1930.3, p. C100-C107 →「図書の力」として汲古随想に収録
77. 「読書と図書の力(第二講)」『図書館学講座』図書館事業研究会, Vol. 10, 1930.5, p. 3C8-3C18 →「図書の力」として汲古随想に収録
78. 「建築と図書」『東京朝日新聞』朝日新聞社, 昭和5年6月27日朝刊, 1930.6.27, p. 6
79. 「和漢書目録編纂概則(修正案)に就て」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 129, 1930.8, p. 197
80. 「図書館事業の理論的基礎」山形県立図書館, 山形県図書館協会編『本県図書館界の躍進』山形県立図書館, 1930.11, p. 3-20

・1931年

81. 「小学教育の合理化へ」『帝国教育』帝国教育会, No. 581, 1931.1, p. 13-15
82. 「山形県の図書館」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 135, 1931.2, p. 43-47
83. 「一月号記事訂正」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 137, 1931.4, p. 161
84. 「分類目録の価値」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 142, 1931.9, p. 322-324
85. 「書庫の窓から」『書物展望』書物展望社, Vol. 1, No. 6, 1931.12, p. 15-17

・1932年

86. 「刻書余慶」『巖松堂展望』巖松堂, Vol. 2, No. 1 (通巻3号), 1932.1, p. 11-17
87. 「時代の要求と図書館の施設」『文教の朝鮮』朝鮮教育会, No. 77, 1932.1, p. 15-24
88. 「澄心堂紙に就て」『書物の趣味』書物の趣味社, Vol. 7, 1932.3, p. 59-67
89. 「続稿澄心堂紙に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 2, No. 6, 1932.6, p. 16-18 →「再び澄心堂紙に就て」として汲古随想に収録
90. 「日東の小敦煌」『日本及び日本人』, No. 245, 1932.8, p. 65-71 →「鎌倉の文物」として汲古随想に収録
91. 「養安院蔵書考 遊鮮偶感(1)」『巖松堂展望』巖松堂, Vol. 2, No. 7 (通巻9号), 1932.10, p. 8-10
92. 「朝鮮鑄字版考 遊鮮偶感(2)」『巖松堂展望』巖松堂, Vol. 2, No. 10 (通巻10号), 1932.11, p. 6-9
93. 「原装本鎌倉版二種」『書物展望』書物展望社, Vol. 2, No. 12, 1932.12, p. 2-10

・1933年

94. 「粘葉用糊の製法に就て」『書物趣味』ブックドム社, Vol. 2, No. 2, 1933.2, p. 84-87 →「薛濤箋と薛濤の文学」として汲古随想に収録
95. 「薛濤箋に就て」『書物展望』書物展望社,

Vol. 3, No. 7, 1933.7, p. 2-6

96. 「書物展望 満二周年雑感」『書物展望』書物展望社, Vol. 3, No. 7, 1933.7, p. 79
97. 「薛濤の遺跡に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 3, No. 8, 1933.8, p. 23-26
98. 「ブックレビュー 図書の受入から配列まで」『読売新聞』読売新聞社, 1933年11月24日朝刊, p. 5 (林靖一著『図書の受入から配列まで』の書評)

・1934年

99. 「珍奇な姓名」『旅と伝説』三元社, No. 71, 1934.1, p. 110-112
100. 「蔵書票の墨書文字に就て」『書香』満鉄大連図書館, No. 56, 1934.1, p. 1-2
101. 「シナイ写本の発見されるまで」『書物展望』書物展望社, Vol. 4, No. 3, 1934.3, p. 7-12 → 斎藤昌三編『書祭: 天の巻』(書物展望社, 1939)にも収録
102. 「民国人の日本訪書と北平図書館善本書目」『書物展望』書物展望社, Vol. 4, No. 4, 1934.4, p. 14-16
103. 「蔵書票と蔵書印」『書香』満鉄大連図書館, No. 64, 1934.9, p. 5-3
104. 「縁山蔵書票に就て(補正)」『書香』満鉄大連図書館, No. 66, 1934.12, p. 5

・1935年

105. 「〈蔵書票〉縁山蔵書票(蔵書票の形式、墨書文字の意義、増上寺の学寮、縁山蔵書の特色、蔵書票の時代)」書物展望社, Vol. 5, No. 3, 1935.1, p. 39-43
106. 「浄土教古活字版図録」『書物展望』書物展望社, Vol. 5, No. 2, 1935.2, p. 22-23
107. 「『維新史籍解題』を読みて」『書物展望』書物展望社, Vol. 5, No. 3, 1935.3, p. 39-43
108. 「日本の本土に関係ある台湾生蕃の伝説(1)」『旅と伝説』三元社, No. 90, 1935.6, p. 20-26

109. 「日本の本土に関係ある台湾生蕃の伝説(2)」『旅と伝説』三元社, No. 91, 1935.7, p. 17-22
110. 「図書形態の進歩に伴ふ書巻修装用語の変遷」『愛書』台湾愛書会, 第4輯, 1935.9, p. 2-17
111. 「読書慾とその満足」『書物展望』書物展望社, Vol. 5, No. 11, 1935.11, p. 32-37

・1936年

112. 「開版者としての佐久良東雄」『印刷美術年鑑』大阪出版社, 1936, p. 1-55

・1937年

113. 「座摩版に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 7, No. 2, 1937.2, p. 15-24
114. 『現時我が国の図書館に使用されて居る蔵書票の二、三に就て』日本蔵書票協会, 1937.2 → 118. と同じ
115. 「遺著の出版に就て」『愛書』台湾愛書会, 第9輯, 1937.5, p. 2-13

・1938年

116. 「図書の意義に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 8, No. 6, 1938.6, p. 2-7
117. 「聚珍英華」(島屋政一編『近世印刷文化史考』大阪出版社, 1938.11, p. 193-204)
118. 「現時我が国の図書館に使用されて居る蔵書票の二、三に就て」『蔵票趣味』日本蔵書票協会, (未見)

・1939年

119. 「昭和十三年回顧 読書感銘」『満洲読書新報』満洲読書同好会, No. 23, 1939.2, p. 5
120. 「装綴の典拠に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 9, No. 8, 1939.8, p. 20-22
121. 「図書の形態と用紙の品種」『和紙研究』和紙研究会, No. 3, 1939.8, p. 9-19

・1940年

122. 「筆名の合法性」『書物展望』書物展望社, Vol. 10, No. 3, 1940.3, p. 2-7
123. 「上代活字思想の淵源に関する一考察」(島屋政一編『印刷美術大観 皇紀二千六百年記念』大阪出版社, 1940.4, p. 41-48)
124. 「勤王家佐久良東雄大人」『上方』上方郷土研究会, No. 117, 1940.9, p. 403-405
125. 「図書の形態と用紙の品種」『文献報国』朝鮮総督府図書館, No. 52, 1940.10, p. 4-7
126. 「新都の都市美と興亜精神(上)」『満洲読書新報』満洲読書同好会, No. 44, 1940.11, p. 4
127. 「新都の都市美と興亜精神(下)」『満洲読書新報』満洲読書同好会, No. 45, 1940.12, p. 4

・1941年

128. 「衛藤利夫氏の『短檠』を読みて」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 255, 1941.2, p. 109-110
129. 「百年の昔を顧みて」『印刷時報』大阪出版社, No. 184, 1941.2, p. 2-13
130. 「評議員献策集」『図書館雑誌』日本図書館協会(日本図書館協会評議員による諮問答申集), No., 1941.2, p. 36-37
131. 「田中敬氏の挨拶(五十週年記念式における総裁賞受賞者総代挨拶)」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 259, 1941.6, p. 50-51

・1942年

132. 「後期木活字版の文化史的意義」『書物展望』書物展望社, Vol. 12, No. 1, 1942.1, p. 2-10
133. 「稲葉通龍の著書と萬葉会の結成」『書物展望』書物展望社, Vol. 12, No. 2, 1942.2, p. 72-80
134. 「再び装綴の典拠に就て」『書物展望』書物展望社, Vol. 12, No. 3, 1942.3, p. 32-36
135. 「活字開版美談」『書物展望』書物展望社,

Vol. 12, No. 8, 1942.8, p. 2-10

・1943年

136. 「読書修練の指導に就て」『図書館雑誌』日本図書館協会, No. 281, 1943.4, p. 227-233
137. 「『人物百談』を読みて」『書物展望』書物展望社, Vol. 13, No. 10, 1943.10, p. 93-94

・1944年

138. 「ソ連出版界の展望」『書物展望』書物展望社, Vol. 14, No. 3-4 合併号, 1944.4, p. 28-29

・1948年

139. 「総合目録編纂法覚書」(国立大学図書館協議会議事録別冊付録), 1948.9 (未見)

・1951年

140. 「総合目録編纂法覚書」(手書きノート) 同志社大学学術情報センター所蔵(1951.11.10. 田中敬より寄贈)

・1952年

141. 「図書館の語義を論ずる」『大学図書館彙報』, No. 1, 1952.1 (未見)
142. 「土の礼讃」『土』金光図書館, No. 23, 1952.8, p. 2-5
143. 「狩野文庫について語る」『ともしび』秋田県立秋田図書館, No. 42, 1952.8, p. 2-7

・1957年

144. 「十六頁物語一書物構成の単位」『書痴往来』書痴往来社, Vol. 2, No. 1, 1957.2, p. 1-3

註

- 1) 田中敬『図書形態学とその応用』早川図書, 1981.10 (田中敬著作集第5巻)
- 2) 『図書・図書館論集』早川図書, 1981.5 (田中敬著作集第6巻), p. 434-441

Author Bibliography of Takashi Tanaka

ISHIKAWA Shigekazu

[Abstract]

In order to study Takashi Tanaka, I conducted a literature survey on his writings. As a result, we found 43 new documents. In this paper, I compiled the author bibliography which added these articles to the writing list announced by “Takashi Tanaka’s Collection of works”.

[Keywords]

Takashi Tanaka, Author bibliography